

古希は唐松岳～蓮華温泉縦走でスタート

期 日	2018年8月1日～8月6日
参加者	CL 西岡康広 会計 小松純子（高知あるふハイキングクラブ会員） 食料 土屋康広（記）
行 程	8月2日 白馬八方 8:00・・・(ゴンドラ・リフト)・・・8:30 八方池山荘 8:45・・・ 9:45 第3ケルン・・・12:00 唐松山荘（テント泊） 8月3日 唐松山荘 5:45・・・6:10 唐松岳・・・7:00 不帰2峰・・・ 8:20 不帰1峰・・・10:50 天狗の頭・・・11:20 天狗山荘 11:55・・・12:50 白馬鑓ヶ岳・・・14:00 杓子岳・・・ 15:50 白馬頂上宿舎（テント泊） 8月4日 5:20 白馬頂上宿舎・・・6:00 白馬岳 6:10・・・6:40 三国境・・・ 8:20 雪倉岳避難小屋 9:00・・・10:00 雪倉岳 10:25・・・ 13:10 水平道分岐 13:35・・・14:20 朝日小屋（テント泊） 8月5日 朝日岳小屋 5:40・・・6:35 朝日岳 6:45・・・7:15 吹上のコル・・・ 9:55 花園三角点・・・11:20 白高沢橋 11:50・・・ 13:30 兵馬ノ平 13:55・・・14:55 蓮華温泉ロッジ（ロッジ泊）

60代最後の登山は、45年前の11月北穂高に初めて登った相棒と再びこの7月に北穂高に登ったことである。

その2週間後、古希となって、唐松岳～蓮華温泉の計画書を上さんに見せたところ、上さん「私、新車を買うから」と伝えられた。

私はこれまでの山行は2ヶ月に1回ぐらいのペースで登っている。連続での山行はほとんどない。「えー新車を買う」ダメと言えなかった。最終的に唐松岳～蓮華温泉の山行は新車と引き換えとなり、思いっきり高くつく山行になった。

後立山北部の縦走は、43年前、今回とは逆に白馬岳から五竜岳の方向に雨の中をもくもくと一人で歩いた記憶しかない。しかし今回は気の合う仲間と一緒に。天気もよさそう。どんなドラマや出会いが待っているのだろうか。

日本中が猛暑の中、高知から電車を乗り継いで来た小松さんと白馬駅で合流し、その夜は麓のキャンプ場で1泊。

8月2日 7:30 ゴンドラの八方駅に到着。ここからゴンドラとリフトを乗り継ぎ、第1ケルンから登山スタート。八方池を眼下に見ながらのんびり高度を稼ぐ。八方尾根を吹きぬける風のさわやかさが心地良い。今年は異常気象。40度越す気温が各地で記録された。この夏、岐阜の金山という所では最高気温41度を記録。この風を分けてあげたい気もする

が、自然のなすがままになるより仕方がない。真夏は特に山はありがたい。



唐松岳のテント場は先着順番の場所選び、遅いパーティーは小屋からドンドン下って、下にテントを設営する事になる。その分、小屋のトイレから遠くなる。

テント条件を考えると八方尾根をゆっくり登る余裕はなく、途中から先を急ぎ 12:00 に唐松岳頂上山荘に到着。さっそくテント場へと 10 分程下る。下り始めてすぐに 7~8 人用のテントが充分張れる広いスペースがあるが、ここには一人用のテントを張っている。先着順、仕方がない。

もう少し下った所にかろうじて 4~5 人用のテントが張れるスペースが 10 メートル位離れて 2 ケ所あった。どちらにするか、あっちに行ったりこっちに来たりして、場所取りにザックとカメラをそれぞれスペースの真ん中に置き、とりあえず 2 か所確保した。結局ザックを置いた方の場所を選択し、ザックを端に動かしてテント設営したが、カメラのことをすっかり忘れていた。(認知症か？歳をとるのはイヤダネー)

唐松岳のテント場では、水は小屋で購入するのが普通。1 リットル 200 円である。

我々がテント張った場所から更に 10 分程下に雪渓が見える。たぶんここには雪解け水が流れているはずだ。偵察方々下りてみると、やっぱり！極上の冷たい水が流れていた。私達のテントの傍を流って更に下の方のテント場を求めて下りて行く他のパーティーにも伝えてあげた。中には既に小屋で買ってきたと 2 リットルのプラティパスを両手に持っている人もいた。

水代が浮いた分で、小屋まで引き返しビールをゲット。テント設営を祝って真っ昼間から乾杯。何しに山に来たの？ビールを美味しく飲むためさ。



その夜のテントの中、またまたビールで乾杯。続いて持ってきた酒で酒盛り。いつもは少量のビールで済ませている小松さん、この日は梅酒をペットボトルの水で割って飲んでいる。いつになく会話は饒舌となった。本人は水が入っていると思っていたペットの中には実は焼酎が入っていた。この焼酎は小松さんが自参したもので、ペットボトルのキャップは真っ赤であり見かけないものだった。焼酎が入っていることを分かりやすくするためにわざわざキャップが赤いペットボトルに焼酎を入れてきたとのこと。本人はこのことをすっかり忘れていた。梅酒に注ぎ足す焼酎を見て、私が「それは焼酎だよね？」と言ったところ、彼女は初めて気が付いた。水のつもりで梅酒に焼酎を注ぎ足していた。本人も飲みながらおかしいと思っていたとのことだが……。そうとは判っていたが、土佐の女だもの、もともと飲める人なのだ。

8月3日 起床3:00 今日は不帰キレットから白馬岳へ、自称高所恐怖症の小松さん少し緊張気味……。

5:00 出発予定、テントを撤収。出発段階で私のカメラが見当たらない事に気が付いた。折角パッキングしたザックをばらしてその中と周囲を何回も点検するがナシ。記憶を辿ってみると昨日テント場を選択している時に置き忘れた可能性ある。その場所には、昨日我々が自分達のテントを張った後すぐに他の人がテントを設営していた。傍まで行って声をかけてみるが中には誰もいない。とりあえず周囲だけ点検してみるがナシ。これで私はシブシブカメラを諦めた。帰って上さんに言ったら何と言われるか。まあ、新車に比べれば安い、安い。

消失気味に小屋まで登ってさあ出発と思ったところ、小松さんが「もしかしたら小屋に届けてあるかもしれない。そうでなくても後で届け出があれば知らせてくれるかもしれない」と提案してくれ、西岡氏が小屋に行く。「あつたー」と言ってカメラを手に戻って来た。(テントの設営者が届けてくれたのだ。お礼をしなれば) 9割は諦めたカメラ、出戻りカメラとなった。

45分遅れて出発。この日はガスと強風で見通しはないが、強烈な日差しもないし風のお陰で涼しい。(というより寒いくらい) まあまあ天候。



一箇所ちょっと高度感があるクサリ場で小松さんの要望でザイルを出すことがあったが、

その他の岩場はガスで視界がきかない分、気楽で不帰キレットをなんなく通過。しかし天狗岳までが遠い。ようやく 11:20 天狗小屋に到着。

天候は晴れてきて視界は十分。ここからは北アルプスのなだらかな尾根歩き。



杓子岳を登るかトラバースしてパスするか迷う。私も西岡氏も以前ここを歩いているが杓子岳はパスしている。しかし高知から来ている小松さんはピークに行きたい。結局、小松さんのお陰で杓子岳のピークに立つことができた。

白馬岳のキャンプ場は満杯。途中ちよつとのんびりしすぎたか。キャンプ指定地の一番奥のギリギリの場所にテントをなんとか設営。途中抜いたり抜かれたりしていて、唐松のテン場で水場を教えてあげて親しくなった若いカップルのテント場も確保してあげた。

8月4日 2:45 起床 目指すは朝日岳。白馬岳から30分の所で、三国境の分岐点に到着。昨年このメンバーで雪倉岳・朝日岳・蓮華温泉を目指している、しかし昨年は天候も悪く三国境で迷いに迷ってギリギリの所で、小松さんの判断で白馬池に逃げ、蓮華温泉に下山している。

今回は快晴。ここからは初めてのルート。雪倉岳までは、北アルプス北部のおだやかでゆったりした尾根歩きを楽しむ。ここまでは良かったが雪倉岳からは急な尾根の下りが標高差600m以上続き、標高2000m位になると涼しさから暑さになって楽しむ余裕はなくなった。

大汗をかいて14:20 朝日岳到着、梅海新道が出来る前は、北アルプス最北の小屋。昨日我々がテント場を確保してあげたが、今日はカップルが我々の為にテント場を確保してくれていた。平坦な砂地で絶好のテン場だ。

朝日小屋前のテン場での夕食は小屋で。この小屋の夕食を食べたい為予約をしていた。食材は自家の畑から取れたという野菜、富山湾の魚、鱒鮭、どれも美味しかった。



テント場から数分歩いた小さな峠で絶景の夕日が見えると言う。ここに行くと数人がほろ酔い気味で膝を抱えて夕日が落ちるのを待っている。ここでも例のカップルと一緒に夕日を見ながら山の話をした。彼らは扇沢から入り針ノ木雪渓を登り、そこからの縦走で明日は栂海新道を通り、明後日には親不知に抜けるという。長い縦走だ。若いなあー。

たぶん黒部か滑川の町であろうか、麓の町にあかりが灯り始めた。町のあかりと夕日に染まり始めた日本海、かすかに能登半島の稜線が見え隠れしている。最北端の夕日は何故かもの悲しそうに見えた。



8月4日 5:40 出発。まずは朝日岳に1時間かけて登り、ここから30分程下った所で、富山の親不知の海に向かう栂海新道の分岐点にでる。

以前から私は、会の30年記念誌「とうげ」に掲載されていた山行報告書の、当時バリバリ活躍していた「篠さん」こと篠田智子さんと「美穂ちゃん」こと三国美穂さんの「6泊7日の珍道中、親不知～扇沢」を楽しく読んでいて、いつか朝日岳～親不知を歩きたいと思っていた。会も50年記念山行で白馬～朝日岳～親不知を縦走している。私も行きたかったが都合がつかず行けなかった。

会の記念山行栂海新道に参加出来なかったが、私は10月に青森から富山への自転車旅で親不知の海にタッチして私の記念山行とした。

朝日岳から親不知・蓮華温泉の分岐点の吹上のコルを横目に見て、蓮華温泉へ下ること標高差1300m。最後は300m以上の登り返し、途中の花も綺麗だったけど鑑賞している余裕はまったくなかった。



三人の共通意見「こんな暑い時には 2 度と白馬～朝日岳～蓮華温泉のルートは行きたくない」

私には以前から二度と行きたくないルートが 1 箇所あった。会に入会して 2 年目、もう 40 年以上前に会山行として白馬岳～穂高岳のリレー登山を計画した。白馬岳～鹿島槍ヶ岳を小沢武巳君、鹿島槍ヶ岳～槍ヶ岳を私し土屋、槍ヶ岳～西穂高岳を佃正知君が担当した。

その時、針の木～蓮華岳～北葛岳～七倉岳～船窪岳～烏帽子岳を夏の甲子園の高校野球をラジオで聞きながら 6 時間下って 7 時間登り返す。その時思った事は「2 度と船窪岳には来ない」であった。今もあれから行っていない。

その時の、佃君・小沢君は、会の 50 周年記念の前後で、60 歳そこそこの若さで帰らぬ人となった。最近では一緒に山に行くことはめっきり少なくなっていたが……。昔からの大切な山仲間を失った。

最終日の宿泊場所の蓮華温泉ではテントからロッジへ。到着後まずはスイカ。



温泉に浸かる前にロッジの前の庭でテント干し。昨日までの夜露の濡れを乾かすためである。

温泉から上がり夕食前にテントの撤収に庭に出てみると、なんとテントが干していたところにナイ。振り向くと建物の傍に移動していた。テントをたたんで袋に入れようとする、今度は袋がナイ。誰かが旅館の人に落し物として届けてくれているかもしれないと受付の人に聞いてみたが、今度はカメラのようにうまくいかず、届け出はナイとのこと。よく聞いてみると温泉に浸かっているうちに強い風が吹いてきて、他のお客さんが、テントを建物の影の風が吹かない所に移動してくれたとのこと。あたりまえだが、そのときテン

トの袋をまで探して移動してくれるわけではない。うかつだった。もともと張っていた場所周辺に捜しに行った西岡氏が駐車場の車の下にあったと言って持って帰ってきた。またまた9割は諦めた袋が出戻り袋となった。一安心。夕食時にはビールで乾杯。

私の隣に1人で食事をしているご婦人がいた。話しかけてみると2年前にダンナさんが亡くなり、それ以降引きこもり生活となっていたがこれではいけないと思い、家族の思い出の場所蓮華温泉に1人で東京から車で来たと言っていた。私と同じ古希の人であった。

彼女は、明日はこの温泉から白馬池の往復をすると言う。7時間はかかる。

新しい事にチャレンジする勇氣、氣力、体力、その1歩を踏み出せなくなって来ているこの年齢にして、テントも購入しこれから山登りを始めるというこのご婦人に心の中でエールを送った。

私の古希は白馬岳から蓮華温泉への縦走で始動した。